

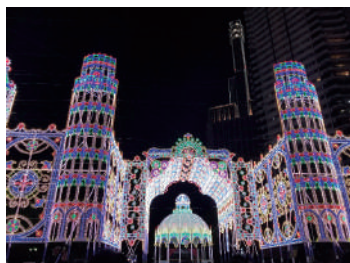


## 普段着の私



薬剤部 出崎 美穂子

毎年同級生大勢で集まり忘年会をします。大体神戸の元町で中華料理の円卓を囲み、それぞれの近況報告や家族、友人、趣味などを話題にたわいもない話をして和やかに過ごします。時々会う友人もありますが、遠方に住んでおり1年に1回程度しか会わない友人もあるので話が尽きることはありません。最初から賑やかな笑い声で盛り上がり、あっという間に時間になり来年の幹事役を決めて宴会は終了、お店を出たらそのままミネナリエを見に行くのが恒例になっています。混雑が落ち着いた終わり頃、会場に到着すると同じような忘年会後の人々が楽しそうに光の中を歩いています。何度も行っていますが、毎年その美しさには心打たれます。そして阪神淡路大震災の時の神戸の街を思い出します。存続が厳しいと聞いていますが、私たちの恒例行事なのでこれからも長く続くことを願っています。



看護部 山本 洋史

休日は1歳になる息子と一緒に過ごしています。育メンきどりです。7時に一緒に起きて、オムツを替え、着替えをし、食事の手伝いをし、散歩と一緒にいく……。なんだか看護師の仕事と、やっていることが似ていますね。子育てへの参加を苦もなく続けているのは、今の仕事をしているおかげかもしれません。

息子は、僕たち夫婦が中々子宝に恵まれず、あきらめた時にふいにできた子どもです。なので、自分でいうのもなんですが、かなり甘やかしてしまっています（最近、やや厳しくしはじめました）。好奇心も旺盛で、部屋にいたのに気がついたら玄関の外で転がっていたりします。

元気に育ってくればいいと表向きは言います。でも、昨今ニュースで未成年の事件や事故などの物騒な話がよく耳に入ります。自分の子どもがそうならないとは限りません。どのように育てるのが正しいかなんてそれぞれだと思いますし。無邪気に笑う息子の姿を見て、将来に希望と不安をおぼえながら、今日も育児に参加する毎日です。



## 部署紹介 検査放射線部 放射線科

放射線科は現在、診療放射線技師 4 名で X 線単純撮影、MRI 検査、CT 検査、RI 検査、骨密度測定検査、X 線透視検査などの検査業務を行っています。これらの画像診断機器は日々性能が向上していくため、操作をする我々診療放射線技師は機器の性能を生かし、より良い医療画像の提供をめざし取り組んでいます。

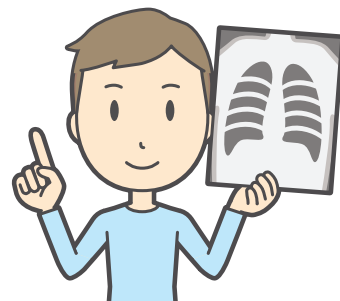
2017 年 4 月より RI 部門を増設、2018 年 2 月には CT 装置を更新、さらに 2019 年 1 月には MRI 装置をしました。

RI 検査とは放射性同位元素（ラジオアイソトープ）で標識された薬剤を体内に投与し、放出される放射線を検出し、薬剤の分布から人体の臓器の働き具合（機能）を画像化したものです。当院で行われている RI 検査種は「脳血流シンチ」、「ドパミントランスポーター（DAT）シンチ」、「心筋交感神経（MIBG）シンチ」、「中枢神経受容体シンチ」などでさまざまな疾患の鑑別診断に有用な検査です。

CT においては従来のものと比較して、X 線管球 1 回転で最大 16 スライスの画像を取得できるため短時間撮影が可能、さらに最新の画像再構成法、被ばく低減機能と金属アーチファクト低減機能が備わったことで、高画質化、低被ばく化が可能となりました。

MRI においても最新の撮像法、画像信号送受信のフルデジタル化、静音化を取り入れ検査環境の改善を図りました。

今後、さらに近隣の医療施設から RI をはじめ、MRI、CT、骨密度などの外注検査の受け入れをアピールしていき、西播磨地域の医療に貢献できたらと考えています。



リハビリテーション西播磨病院だより

# ひがりの都

2019年  
1月発行



## 新春に想うこと

院長 加藤 順一



新年を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。今年は、「平成」から新しい元号に変わる新しい年となり、気分も新たに新春を迎えました。西播磨病院は、平成18年の開院以来、今年で13年目を迎えることとなります。暦の十二支で数えるとちょうど一回りしたことになり、ひとの成長に例えると「成長期」に入り、社会にしっかりと足をつけて前に歩んで行く時期でもあります。リハビリ医療に特化した県立病院として西播磨や中播磨圏域の皆様を中心に多くの患者さまにご利用いただいております。現在ではリハビリ専門病院として県民の皆さまに定着しつつあります。

西播磨病院では、先進的かつ安心なりハビリ医療の提供をめざし、「地域とともに歩み成長するリハビリ専門病院」という運営理念のもと、職員一同さらに邁進する所存です。脳卒中や整形外科の術後などの回復期リハビリ治療やパーキンソン病・神経筋疾患など神経難病のリハビリ医療は勿論のこと、脊髄障害による四肢まひなど、他の病院では取り組みにくい疾患のリハビリにも更に力を注いでいく予定です。昨年の秋にパーキンソン病患者でiPS細胞を用いた移植治療が、世界で初めて実施されたというニュースは、これからの治療において大変重要な一歩と考えられることは言うまでもありません。

また、現在、超高齢者社会を迎えるにあたり、認知症患者およびそのご家族へのサポート体制として、当院に併設されている認知症疾患医療センターにおきましては、行政機関・近隣の医療機関および在宅介護領域との連携協力のもと、リハビリ医療と介護サポート支援の相談窓口として西播磨における認知症の診療の中核をより一層担う所存です。当院を退院後に介護を要し在宅生活されている方々に対して、介護保険による通所リハビリ事業を実施していますが、身体および生活機能を維持し、安心して住みなれた地域で生活いただけるよう一層努力して参ります。

また、年2回の病院ロビーコンサートやクリスマス会ならびに当センターにおいて秋に実施される「ふれあいリハフェスタ」や「県民公開講座」など数々の行事も計画しており、いろいろな機会を通して病院・センターを訪れていただきたいと思います。今年度も、西播磨病院への県民の皆さまのご理解とご支援をお願いいたしますとともに、安全でより良いリハビリ医療に貢献できるよう職員一同研鑽する所存です。

皆様がたにとりまして、どうぞ良い一年でありますようお祈り申し上げます。

“おんせん”と“うまいもん”でおもてなし

カニおすすめコース  
平日1室2名様利用、1泊2食付  
大人お一人様(60歳以上の方) **18,070円** (税込)

松葉ガニのご提供は  
3月中旬頃までとなります

その他、いろいろなプランがございます。  
詳しくはHPをご覧ください！

**浜坂温泉保養荘**  
〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775  
TEL 0796-82-3645 FAX 0796-82-3647  
<http://www.hamasaka-ni.com/>

**Play Sport**

ふれあいスポーツ交流館

TEL 0791-58-1313  
FAX 0791-58-1323

〒679-5165 かつの市新宮町光都1丁目7番1号



# 県民公開講座について



9月15日（土）、当西播磨総合リハビリテーションセンター研修ホールにおいて、「認知症の人にできること」をテーマに、今や誰もがかかると可能性のある身近な病気となった「認知症」について、その予防、治療及びケアを紹介することを目的とした県民公開講座を開催しました。

今回で3回目の開催となり、これまでも患者さんやそのご家族など数多くの参加をいただいたところですが、今回は募集告知後早々に参加定員に達し、当日は、予定参加人数を大幅に超える175名の皆様をお迎えすることとなり、認知症への関心の高さをうかがい知ることとなりました。

午後1時、加藤院長の主催者あいさつから始まり、引き続き講演では、当院認知症疾患医療センターの榎林センター長からは「知ること」と題し、認知症の正しい理解と早期発見の大切さ等について、当院認知症疾患医療センターの藤田医長からは「考えること」と題し、認知症になる前、認知症と診断された時及び認知症が進行した時、ご本人が考えなくてはならないことについて、当院認知症看護認定看護師の中田師長からは「関わること」と題し、認知症の方に対するケア技術の紹介等について講演を行いました。

講演終了後、当センター福祉用具展示ホール及び障害者スポーツ施設ふれあいスポーツ交流館の見学会を開催し、こちらにも多くのご参加をいただくことができました。とりわけ福祉用具展示ホールでは、認知機能のバランスや変化が確認できる検査機器「脳活バランサー」に、たくさんの方が興味を示され、障害者・高齢者の自立と社会参加の支援を目指す、当センターのリハビリテーションサービスを知っていただく機会となりました。

ご参加いただいた皆様には、心より感謝を申し上げます。



# 簡易型ドライビングシミュレーター（Honda セーフティナビ）について

作業療法室の一角にある青いバーテーションで囲まれた場所があるのをご存知ですか？

そこには運転能力を評価サポートする機器ドライビングシミュレーターがあります。大きなバーテーションの中にあるため、ご存知ない方がいるかもしれません。そこで今回は、このドライビングシミュレーターを紹介します。

基本構造は、3面のディスプレイとハンドル、ウインカー、アクセル・ブレーキです。必要に応じて、片手でハンドルを操作するための旋回装置（図1）や足ではなく手でアクセル・ブレーキを操作するための手動装置（図2）を付けることができます。モニターを通して以下の様な運転体験ができます。

- ・運転反応検査：ペダル・ハンドル操作の反応の速さ・正確さで、集中力や判断力を検査することができます。
- ・危険予測体験：市街地走行における周囲の安全確認、誘導アナウンスや指示標識に従っての運転状況を評価できます。
- ・環境別走行体験：夜間・雨天・雪等の様々な環境での運転体験ができます。

自動車運転によって生活の質は向上し、自立生活や社会参加への道は広がりますが、一方で病気や障害に起因した自動車事故が近年社会問題となっていることも事実です。そのためドライビングシミュレーターは医師・作業療法士をはじめとするチームで十分検討を行い、適応を認められた方に対して実施しています。

ご質問のある方は作業療法士にお声かけ下さい。



図 1



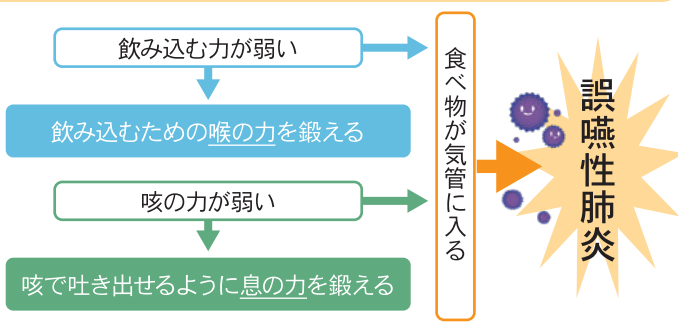
図 2

# 嚥下体操について

## 誤嚥・誤嚥性肺炎を防ごう

食べ物などが食道でなく気管に入ってしまうことを「**誤嚥**」といいます。  
誤嚥した物に含まれた菌やウイルスが繁殖して炎症を起こすと「**誤嚥性肺炎**」になります。

と、前回説明しました。  
誤嚥をしたり誤嚥性肺炎にならないためには、  
**①食べ物が入らない**  
**②気管に入りかけてもしっかり吐き出せる**ことが大切です。



# ペットボトル体操

## ●喉の力を鍛える

底の中央が喉仏に当たる位置に

空のペットボトル(できれば円柱のものを)を喉に当てます。

少し固めの底が丸いペットボトルが良いです

①ペットボトルを顎で挟んで10秒間キープ！  
②顎を引いてペットボトルを鳴らそう！

## ●息の力を鍛える

ペットボトルをくわえて「ぼこっ」というまで息を吸う  
→思いっきり息を吐く

\*ペットボトルは最初は柔らかい素材のペットボトル(500ml)で徐々に固めのもの→大きいものと難易度を変えてみてください

# ふれあいリハフェスタ in 西播磨 2018

今年も10月20日（土）に3年ぶりの快晴の下で盛大に開催しました。特にチビッコの参加が多く、全体で約2,000名もの来場者を数えました。

①メインステージでのアトラクション②ASハリマアルピオントップ選手とのサッカーイベント③交流ホールでの創作コーナー、福祉用具体験、患者団体の活動紹介④ふれあいスポーツ交流館での障害者スポーツ体験⑤飲食・特産品販売コーナー⑥スタンプラリーやおたのしみ抽選会など、多世代の方に多彩な企画を提案し、当センターの魅力を存分に知っていただきました。特に初めて芝生広場で行ったゆるきゃらサッカーは大変な盛り上がりとなりました。

おかげさまで秋のイベントとして年々知名度も向上し、リピーターも増加傾向にあります。今後はこうした年1回のお祭りだけではなく、年間を通じて多く来訪していただけるよう様々な工夫や提案を行っていききたいと思います。

